

平成23年(2011年)12月期 第2四半期 決算説明会



コスモ・バイオ株式会社

2011.8.17

www.cosmobio.co.jp

JASDAQ
Listed Company 3386

目次



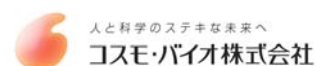
人と科学のステキな未来へ
コスモ・バイオ株式会社

1. 会社概要と事業の内容
2. 2011年12月期 第2四半期 決算の概要と
通期業績見通し
3. 2011年12月期の取り組み

1. 会社概要と事業の内容

www.cosmobio.co.jp

会社概要

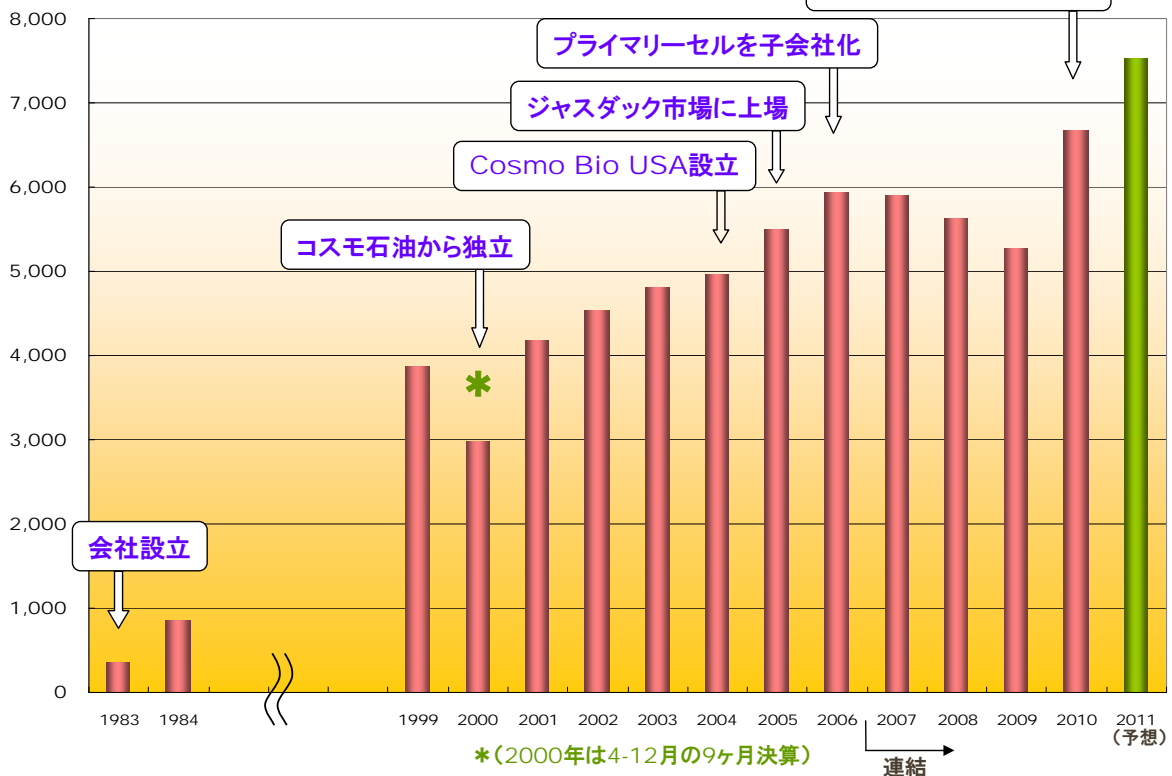


社名:	コスモ・バイオ株式会社
業種:	卸売業
上場市場:	大阪証券取引所JASDAQスタンダード
証券コード:	3386
本社所在地:	東京都江東区東陽二丁目2番20号
代表者:	代表取締役社長 笠松 敏明
設立:	1983年8月25日
事業内容:	ライフサイエンスに関する研究用試薬、機器、 臨床検査薬の輸出入および国内販売
事業年度:	1月1日から12月31日まで
従業員数:	連結:115名 個別:77名(2011年6月30日現在)
連結子会社:	株式会社プライマリーセル ビーエム機器株式会社
非連結子会社:	Cosmo Bio USA, Inc.



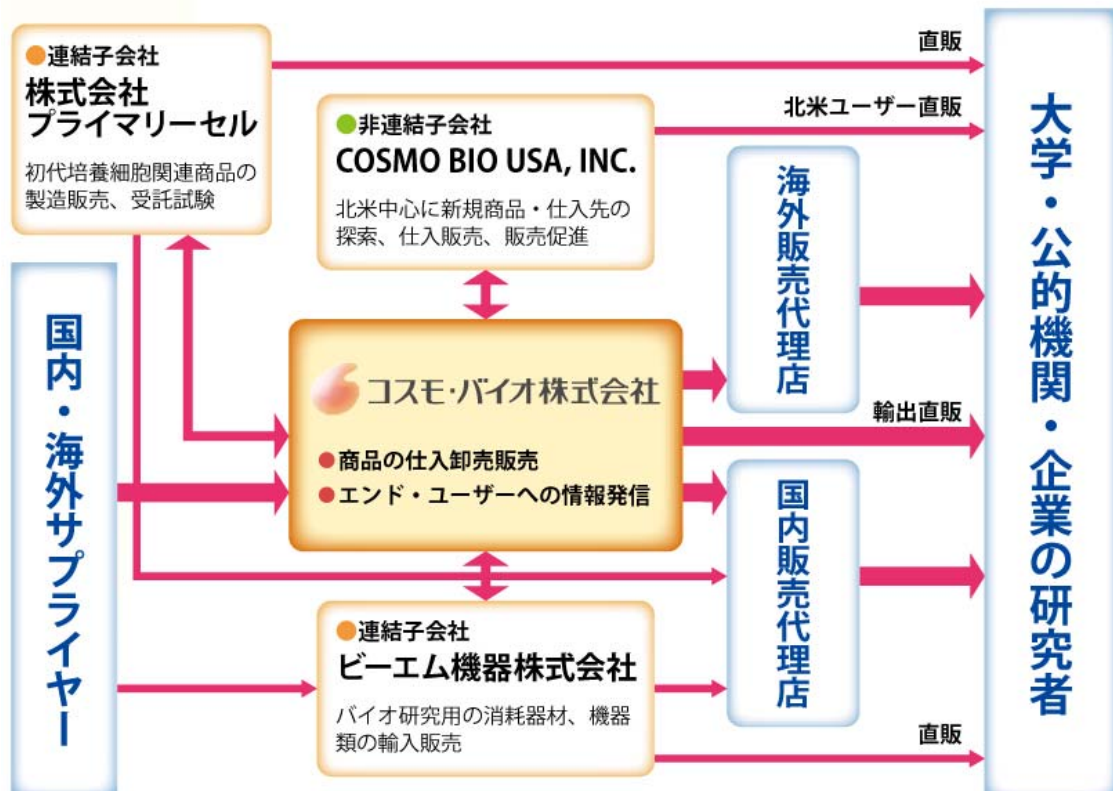
当社の歩み

売上高(百万円)



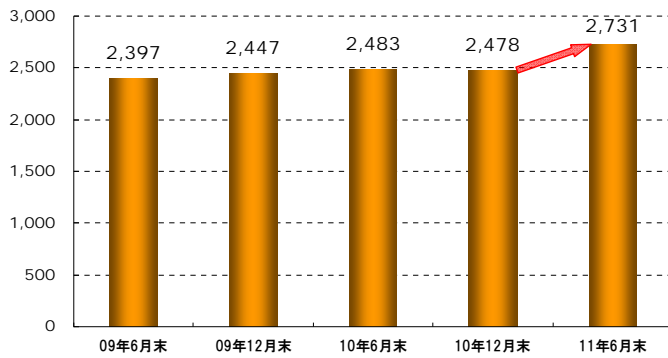
ビジネスモデル

「世界のライフサイエンス研究を支援する専門商社」



株式の状況(2011年6月末現在)

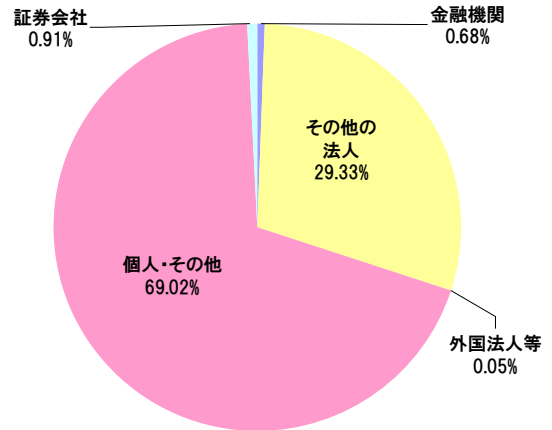
株主数の推移



発行済株式数
60,480株

株式の売買単位: 1株

所有者別株式分布状況



大株主状況

株主名	持株数(株)	持株比率
東京中小企業投資育成株式会社	11,520	19.05%
コスモプロパティサービス株式会社	5,760	9.52%
コスモ・バイオ従業員持株会	3,621	5.99%
福井 朗	3,000	4.96%
原田 正憲	2,000	3.31%
柴沼 篤夫	1,480	2.45%

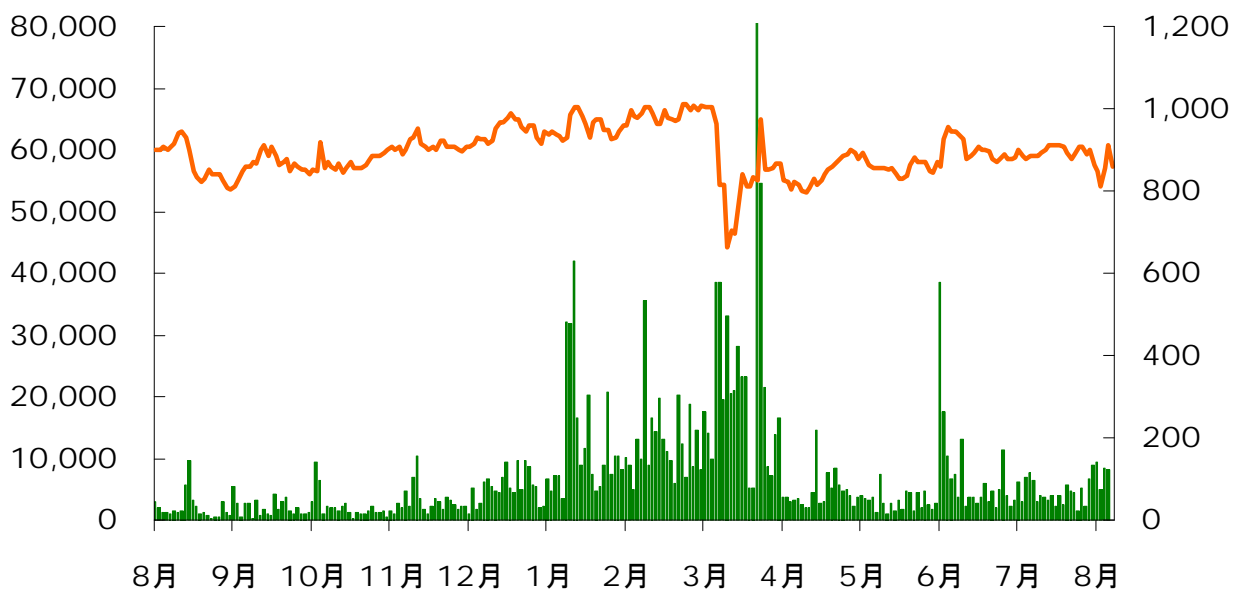
注)コスモプロパティサービス株式会社はコスモ石油株式会社の連結子会社です

株価推移(2010/8/1~2011/8/16)

株価(円)

■ コスモ・バイオ出来高 — コスモ・バイオ終値

出来高(株数)



2. 2011年12月期 第2四半期 決算の概要と 通期業績見通し

www.cosmobio.co.jp

業績ハイライト

人と科学のステキな未来へ
コスモ・バイオ株式会社

売上高

【前年比】

↑
112%

前期:ビーエム機器の業績が第2四半期より寄与
当期: " 第1、第2四半期とも寄与

【予想比】

↓
93%

当第1四半期の政府補正予算が大幅減少
東日本大震災により研究活動が低下

➡ 第1四半期は低調だったが、第2四半期は回復傾向

利益

前期および当期業績予想より、いずれも増益

連結損益計算書

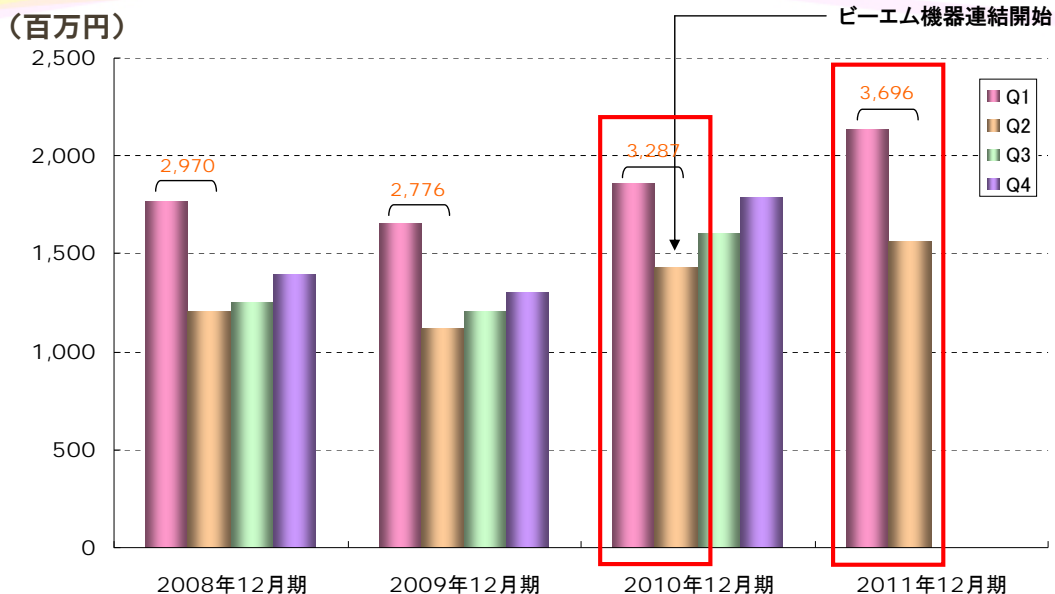
(単位:百万円)

	2010年	2011年	実績 増減額	前年 同期比
	2Q累計実績	2Q累計実績		
売上高	3,287	3,696	408	112%
売上総利益	1,396	1,652	255	118%
販管費	935	1,064	128	114%
営業利益	461	588	126	128%
経常利益	445	570	125	128%
純利益	278	316	38	114%

※前期(2010年)第2四半期よりビーエム機器を連結子会社化 - 増収・増益要因
政府補正予算の大幅減により研究活動が昨年ほど活性化せず - 減収要因
円高傾向 - 増益要因

※東日本大震災による損失 4百万円

四半期別連結売上高動向

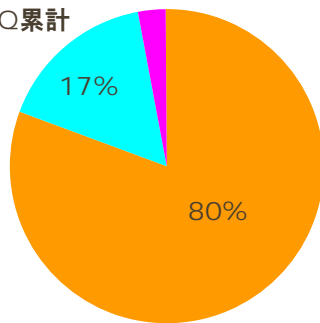


● 第1四半期は大学等の予算執行が最も活発で売上が大きく、その後、新年度にあたる第2四半期に売上高が落ち着くものの、第3から第4四半期に向けて売上高が増加する傾向

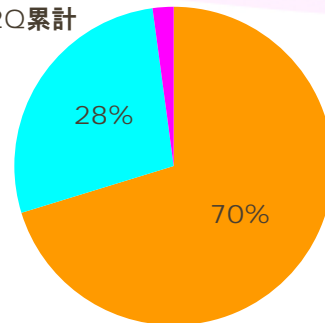
● 今期は、第2四半期で売上高回復傾向

商品分類別連結売上高

2010年2Q累計



2011年2Q累計



(単位:百万円)

連結	2010年2Q累計		2011年2Q累計		増減額	増減率
	売上高	構成比	売上高	構成比		
研究用試薬	2,649	80.6%	2,592	70.1%	△57	△2%
機器	548	16.7%	1,026	27.8%	478	87%
臨床検査薬	90	2.7%	77	2.0%	△13	△14%
合計	3,287	100.0%	3,696	100.0%	408	12%

連結貸借対照表

(単位:百万円)

	2010年12月末	2011年6月末	増減額
総資産	6,170	6,451	280
流動資産	4,720	5,247	526
固定資産	1,449	1,203	△245
負債合計	1,113	1,156	43
純資産合計	5,057	5,294	236
株主資本	4,664	4,872	207
自己資本比率	74.9%	75.0%	

現金及び預金 +611百万円
有価証券 +299百万円
売上債権 △303百万円

未払い法人税等 +136百万円

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	2010年 第2四半期累計	2011年 第2四半期累計	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	308	829	521
投資活動によるキャッシュ・フロー	△288	△115	172
財務活動によるキャッシュ・フロー	△72	△110	△37
現金および現金同等物の増加額	△56	601	658
現金および現金同等物の四半期末残高	1,355	1,783	428

税金等調整前四半期純利益 594百万円
 売上債権の減少 303百万円
 法人税等の支払い △109百万円

配当金の支払い △108百万円

2011年12月期の連結業績見通し

(単位:百万円)

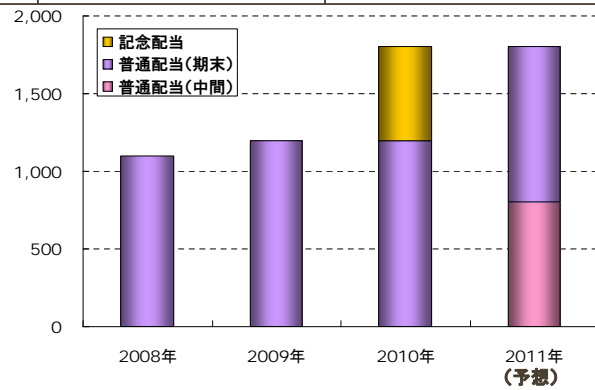
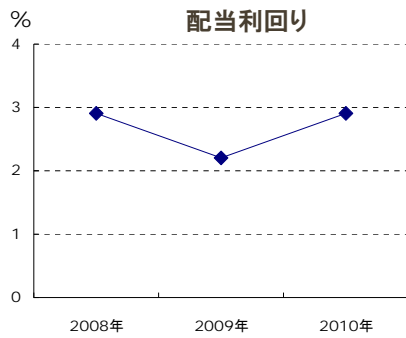
	09/12月期 実績	10/12月期 実績	11/12月期 予想	対前年比	
				増減額	増減率
売上高	5,282	6,676	7,529	853	13%
営業利益	456	701	765	64	9%
経常利益	445	635	783	147	23%
純利益	137	373	433	59	16%
売上高営業利益率	8.6%	10.5%	10.2%	—	—

平均為替レート	09/12月期	10/12月期	11/12月期 上期実績	11/12月期 予想(通期)
円/USドル	94円	87円	82円	90円

2期連続の増収増益を予想しています

配当について

	1株当たり配当金		合計
	中間	期末	
2011年 12月期	800円	1,000円 (予想)	1,800円 (予想)
2010年 12月期	0円	1,800円 (うち普通配当 1,200円) (うち記念配当 600円)	1,800円
2009年 12月期	0円	1,200円	1,200円
2008年 12月期	0円	1,100円	1,100円



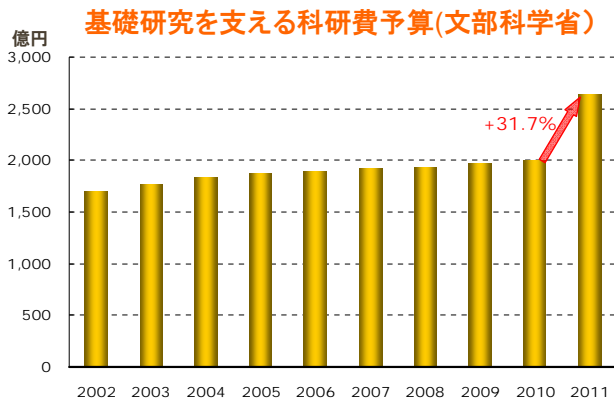
※株価は各12月期の末日終値

3. 2011年12月期の取り組み

ライフサイエンス研究用試薬の市場動向

市場環境

- 近年は政府の科学技術関連予算の伸び幅が緩やかで、大学・公的研究機関の研究市場の伸び率も緩やかと想定。一方でiPS細胞などに代表される再生医療分野は伸びも大きく成長が期待される。
- 製薬企業等の研究開発活動は引き続き堅調な動きとなっている。



2011年度の文部科学省予算は、厳しい財政事情のなかで前年度を下回る中、日本政府の『ライフ・イノベーションによる健康大国戦略』に基づいて、科学技術の基礎研究分野へ重点配分が行われている。

一方で、東日本大震災の影響により、一部予算の執行待ちを文部科学省が通達。先行き不透明ななかでの研究活動を強いられている。

日本学術振興会ホームページより
※今年度より一部研究の基金化を行っており、次年度以降の研究費分として執行予定の研究費を含んでいる。これを除いた実質的な予算は2,303億円(前年比+15.2%)。

2011年の取り組み

活力ある成長企業を目指す

ビジョン

- 第一に選ばれる研究開発支援の会社
- 世界のライフサイエンス研究に貢献
- 多角的な事業基盤の強化

<取り組み>

- | | |
|---|---|
| <p>1. 事業規模の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 売上アップ・シェアアップ ● 有望分野への集中 ● 海外展開の推進 | <p>3. ビジネスの多角化</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 周辺の新規ビジネスの探索 ● 仕入先と連携したビジネス展開 |
| <p>2. コーポレートブランドの高揚</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ライフサイエンス研究支援で最も信頼される企業 ● 誇れる会社 ● 自社品の充実 | <p>4. 経営の効率化・合理化</p> <ul style="list-style-type: none"> ● グループ内の業務効率化 — 仕入、販売、物流 — |

1. 事業規模の拡大(売上アップ・シェアアップ)

- 商品開発・管理
効果的な商品導入
仕入先との協調戦略

顧客ニーズを知る

商品情報の整備

- 顧客目線に立った情報・物流サービスの提供
「コスモ・バイオニュース」の発行
各種カタログの発行
WEBでの最新商品情報の提供

ホームページ・
カタログの
充実

- グループ会社と連携した取り組み
- 対面型提案営業の推進



1. 事業規模の拡大(有望分野への集中)

細胞関連分野



- 共同研究開発
- ヒト初代細胞を用いた受託解析サービス
- iPS細胞研究支援
- セルベースアッセイ試薬の充実



コスモ・バイオ

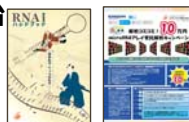
連携

プライマリーセル

大学・企業等の研究機関

RNA関連分野

- 品揃えを充実し、自社ブランド品も開発
 - 岡山県産業振興財団からmiRNA関連特許に関する実施許諾を取得(1月)
 - スイッチギア・ゲノミクス社と日本国内独占販売代理店契約を締結(4月)
- 新規受託試験サービスを開始



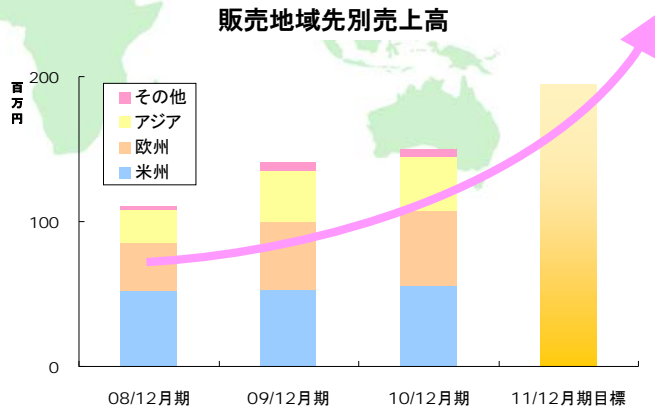
創薬支援分野

- 対面型提案営業による研究者へのアプローチ
- 仕入先との緊密な連携による顧客サポート

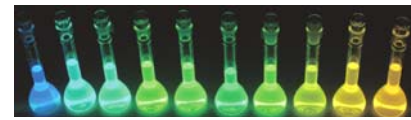


1. 事業規模の拡大(海外展開の推進)

- アジア・ヨーロッパの販売代理店網を強化
(2011年6月末時点で14社(1社新規採用、2社契約内容拡充))
→ 今後更に既存代理店との関係強化および新規代理店の起用により代理店網を拡充する)
- 米州の市場開拓を強化
Cosmo Bio USAを米国市場開拓の拠点とし、また世界に向けた情報発信拠点に
- 効果的な販売促進活動
 - Cosmo Bio USAと連携した売上拡大
 - Web、Eメール等を活用した効果的なプロモーション活動



タンパク質合成キット
PURESYSTEM®



細胞染色用蛍光色素 POLARIC™

2. コーポレートブランドの高揚

ライフサイエンス研究のサポートで最も**信頼**される企業を目指す
～第一に選んでいただける会社～

<商品力>

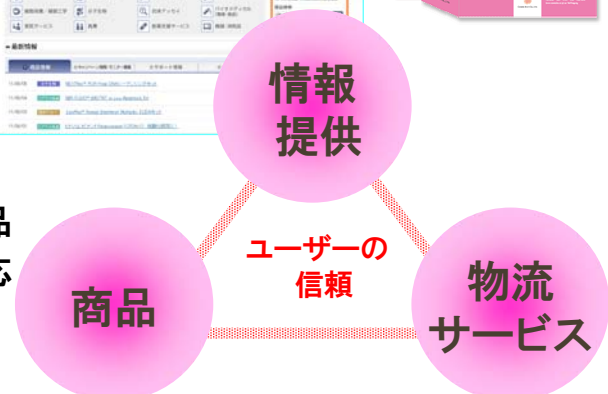
- 日々進歩する研究の動向をつかみ、常に先端商品を導入
- 新商品をいち早く紹介

<情報提供力>

- きめ細やかな商品・技術情報提供

<物流サービス>

- 適切な在庫管理と迅速・確実な納品
- ユーザー・代理店への責任ある対応



2.コーポレートブランドの高揚(自社品の充実)

- 高品質自社ブランド商品の充実
 - 自社ブランド抗体やRNA研究用試薬のラインアップを充実
 - 研究者のノウハウや知的財産を活かしたオリジナル商品、子会社と連携したユニークな商品等を積極的に導入予定
 - グループ会社・関連会社間での自社商品の共同開発

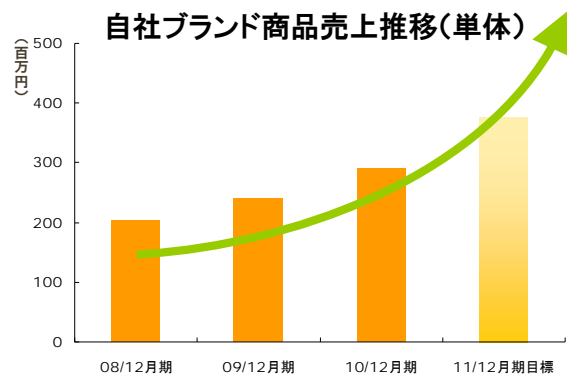
今後も販売品目を増やし、自社ブランドを充実させていく方針です



電気泳動装置



「コスメディウム」
培養用培地シリーズ



2.コーポレートブランドの高揚(社会貢献)

『公開講座応援団』
～次の世代を担う“明日の科学者”に
ライフサイエンスの面白さと楽しさを
伝えるお手伝い～



『ホタルの光で「がん細胞」を
追いかける』
愛知県がんセンター研究所

『食品中のアレルギーを評価
する-PCR法-』
帯広畜産大学



【2010年度に開催
された講座の一例】

『Science Signaling』



- 当社ウェブサイト『Science Signaling』の日本語版サイトの運営
- 『Science Signaling』日本語版要旨集を年4回発行
- 毎年「サイエンス誌に載った日本人研究者」という、研究と人柄を紹介する冊子を制作・配布

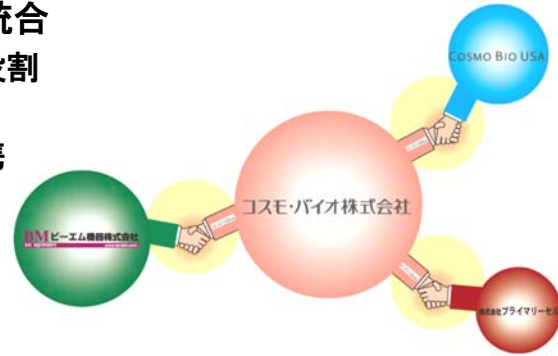
3. ビジネスの多角化

これまで培ってきたノウハウを生かした新規ビジネスの創出や
多角的なビジネス展開を目指す

- 周辺の新規ビジネスの探索
- 仕入先と連携したビジネス展開

4. 経営の効率化・合理化

- グループ会社の業務・機能を整理・統合
 - 細胞関連事業・開発製造・販売の役割の明確化
 - 機器販売・ビーエム機器社との連携
- COSMO BIO USAを活用した海外展開の加速
- 物流システムの整備
- 組織の活性化 評価・厚生面の変更



ご注意

- 本資料を作成するに当たっては、正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保障するものではありません。
- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述部分は、当社が本資料作成時点において入手可能な情報から得られた判断に基づいており、リスクや不確実性を含んでおります。実際の業績は、様々な要因により大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきくださいますようお願いいたします。
- 本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社株式への投資勧誘を目的としておりません。

《IRに関するお問い合わせ先》
コスモ・バイオ株式会社 経営企画室
ir-contact@cosmobio.co.jp

当社IRサイト
<http://www.cosmobio.co.jp/ir>

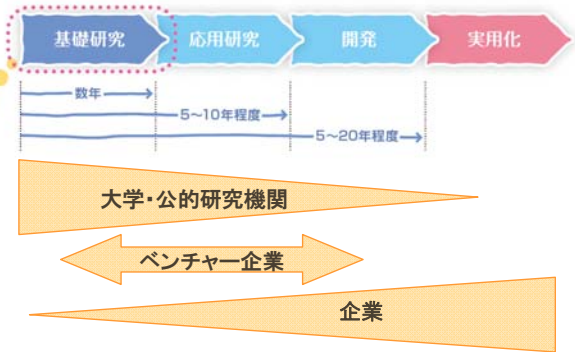
参考:ライフサイエンス研究



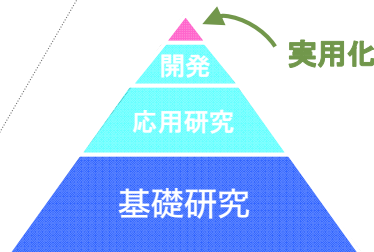
① ライフサイエンス市場の分野は幅広い

それぞれの分野に対して...

③ 各研究ステップの研究機関



コスモ・バイオが支援しているのはココ!!



それぞれのステップを担うのは...

② 研究ステップのサイズ

コスモ・バイオグループの取り扱い商品(一例)

iPS細胞 ～再生医療・薬剤開発～

iPS細胞

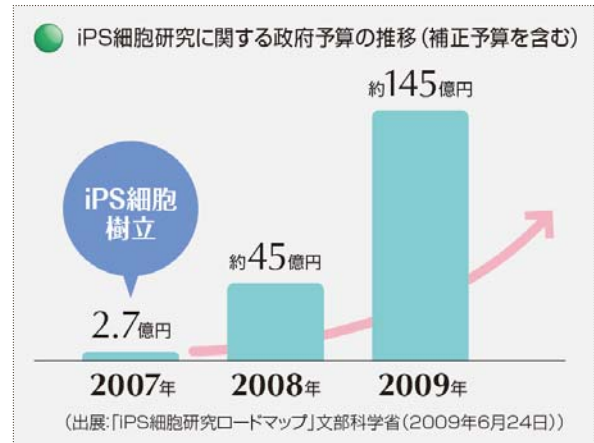
- すべての臓器・器官に分化しうる細胞で、皮膚などの体細胞から作製が可能
- 京都大学 山中教授 により樹立され、世界で初めて論文報告(2006年)

iPS細胞で何ができるか

- 創薬研究への応用(毒性評価)
- 病態モデルの作製
- 自らの細胞を利用した再生医療

当社取り扱いのiPS細胞研究用試薬

- iPS細胞培養用培地
- 遺伝子導入試薬
- 細胞機能評価キット
- 他多数



RNA研究 ～治療・診断～

RNA研究

- 小サイズのRNAを細胞内に取り込むことで、本来の遺伝子機能を抑制できる(RNA干渉)
- 調べたい遺伝子に対応するRNAを細胞内に取り込んで遺伝子を抑制させることによる遺伝子機能解析、病気の原因遺伝子を抑制する等の研究

RNA研究がもたらすもの

- がん治療をはじめ、眼科疾患、感染症、高コレステロール血症、アミロイド蓄積性疾患、中枢神経系疾患等の**革新的治療**が可能に

例えば・・・

がん治療では、従来の治療はがん細胞だけでなくまわりの正常な細胞にもダメージを与え、深刻な副作用を起こすことがありますが、RNA薬は特定の遺伝子の働きを抑制してがん細胞のみをターゲットにできるため、体に負担のない高効果の治療が期待できます。

当社取り扱いのRNA研究用試薬・受託サービス

- RNA導入試薬
- RNA機能解析キット
- RNA配列解析サービス
- RNAカスタム合成サービス
- 他多数

